

メンバーズ



溝口 雅子さん
(R-265)

会員歴10年目、チェロが弾けない会員です。日本チェロ協会との出会いは、3年間務めた事務局でした。2005年のインターナショナル・チェロ・コンGRESS・イン神戸にチェロ協会も運営団体として参加し、想像を絶する現場を経験しつつ、チェロで世界が繋がる喜びを実感。さらに2006年の「チェロの音楽会」。チェロサロン、マスタークラス以外のイベント制作は初めてで、企画では、頼れる

会員の石島さん、当日の運営はチェロコンGRESSで出会った渡邊さんのお力を借りて、無事開催。終演後、初代事務局の児玉さん、箕口さんも駆けつけてくださり、チェロ協会の絆に感激したことを覚えています。

事務局を離れた後は会員となり、毎年、スタッフとして各イベントに参加しています。スタッフはみんなボランティア。同僚や友人に珍しがられますが、チェロの音色に触れ、チェリストを身近に感じられる魅力、スタッフのチームワークのよさにはまってしまいました。仕事が忙し過ぎてやめようかと思ったこともありますが、本番を体験するたびに、やっぱり楽しくて続けています。

来年のチェロ協会創立20周年に向けて、みなさんと一緒にアイデアを出して盛り上げていきたいと思っています。

事務局からのお知らせ

第10回総会開催(8月27日[日])

今年の8月に総会を開催いたします。沢山の会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。ご出席をご希望の方は別紙よりお申込みください。

第10回日本チェロ協会総会

日時：2016年8月27日(日)
10:00~11:30(予定)
会場：サントリーホール リハーサル室

■2016年度会員更新のお願い

4月より新年度を迎え、今年度も多くの会員の皆さまに更新のお手続きをして頂きました。引き続き、更新の受付をしておりますので、ご希望の方は、年会費の納入をお願いいたします。尚、退会をご希望の方は、6月末までに事務局までご一報(書式自由)ください。ご協力をお願いいたします。

■ご住所・メールアドレス変更について

事務局からお送りするお便り・メールが住所・宛先不明で戻ってきちゃうことが度々ございます。ご住所・メールアドレスを変更された場合は必ず事務局にご一報下さい。

■HP “チェリストを探す”・“公演情報”の募集

チェロ協会のホームページではチェリストを紹介する“チェリストを探す”、公演情報を掲載する“チェロの公演情報”のページを設けています。プロ、アマチュアに関わらずチェロの活動や公演情報について皆さまの情報をお寄せください。HPから直接ご投稿頂くか、メール、FAXで承っておりますので、皆様のご投稿をお待ちしております。

下記の項目(※は必須)をお寄せください。

チェリストを探す

- 1) 氏名※
- 2) よみがな※
- 3) 所属先や肩書き等※
- 4) プロフィールサイト等のURL
- 5) コメント

公演情報

- 1) 公演名※
- 2) 開催日時(開演時間)※
- 3) 会場名※
- 4) 出演者
- 5) チケット料金
- 6) 曲目
- 7) お問合せ先※
- 8) コメント

■新しい事務局員のご紹介

2016年3月より事務局に新たなメンバーとして田中彩希子さんに加わって頂きました。非常勤ではありますが、これまで通りひとりで事務局のお仕事を務めさせて頂きまので、どうぞ宜しくお願いいたします。

この度、事務局のお手伝いをさせていただくこととなりました。田中彩希子です。微力ではありますが、精一杯努めさせていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

編集後記

音がいつもより響いているような気がすると思う今日この頃。それはさわやかな天気のおかげなのか、それとも右腕の使い方が向上したのか?! まもなく訪れる高湿度の季節も引き続き音が響けば、きっと後者だ!

さて、今回より編集に携わることになりました。杉野と申します。実行委員の一員として、会員の皆さまへ旬でホットな情報提供をお届けする所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。
杉野 貴代子

日本チェロ協会会報 (JCS NEWS) 第46号 2016年6月2日発行

発行：日本チェロ協会 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル22階 私書箱509号
電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310 E-mail office@cello.gr.jp

発行人：堤 剛 編集：日本チェロ協会事務局 編集協力：三和プリンティング(株)



JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第46号 (2016年6月2日)

第6回 チェロの日開催



●多彩な音色に包まれた2日間

「チェリストとチェリストとチェリストとあなたと」というコピーのもと、日本チェロ協会は第6回チェロの日を行いました。今年もサントリーホール・ブルーローズを3月20~21日にかけてお借りして「チェロと仲良くなるコンサート」と「チェロでひとつになるコンサート」を開催、チェロでひとつになるコンサートでは「チェリストの集い」参加者によるチェロ・オーケストラの演奏が行われるなど、例年通り賑やかな2日間となりました。

●チェロと仲良くなるコンサート

初日に開催されたチェロと仲良くなるコンサートには、会員の黒川実咲さん・高木慶太さん・堀了介さん・堀沙也香さんが出演。黒川さんはピアニストの江沢茂敏さんと共にブラームスのチェロ・ソナタ第2番を熱演。瑞々しい二人の熱演がホールを包み込みました。続いて高木さんはバンドネオン奏者の鈴木崇朗さんと共に登場。なかなか見ることの出来ない組み合わせですが、チェロとバンドネオンの音色は絶妙の相性で、バッハやピアノの楽曲に会場からは盛んな拍手が湧いていました。(2ページに続く)

向山佳絵子さんのチェロサロン

7月24日(日)サントリーホールにて開催

●「自分の立ち位置=役割は!?」をテーマに

7月24日にNHK交響楽団首席チェロ奏者の向山佳絵子さんをお迎えして、チェロサロンを開催します。今回のテーマは『自分の立ち位置=役割は!?』です。アンサンブル、オーケストラなど様々な場面に当てはまるテーマですが、ぜひチェロサロンを通じて考える機会を持つてはいかがでしょうか。多くの皆さまの受講・聴講をお待ちしております。お申込み方法は、別紙の案内をご参照ください。



©大窪道治

チェロサロン 概要

主宰：向山 佳絵子さん 日付：2016年7月24日(日)
時間：13時30分開講 会場：サントリーホール・リハーサル室
アンサンブル曲：クレンゲル『讃歌』、スーザ『星条旗よ永遠なれ』
※申込方法等は別紙の案内をご参照ください。

■講師Profile

向山佳絵子 Kaeko Mukoyama

東京生まれ。東京藝術大学を経てドイツ・リュベック国立音楽大学に留学。松波恵子、堀江泰氏、レース・フラショー、毛利伯郎、ダヴィド・ゲリンガスの各氏に師事。第54回日本音楽コンクール第1位。第10回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第1位。世界の一流演奏家や、N響、東京都響、読売日響他多くのオーケストラとも共演しているほか、リサイタル、室内楽、公演プランナーと多彩に活躍している。現在、東京藝術大学非常勤講師として後進の指導を務める傍ら、NHK交響楽団首席奏者も務めるなど、日本を代表する実力派チェリストとして活躍している。

JCS NEWS 第46号 コンテンツ

- 1 チェロサロンのご案内/第6回チェロの日開催報告
- 2・3 第6回チェロの日開催報告
- 4・5 Cellists' update
- 6・7 第6回チェロの日 チェロ・ゼミナールより
- 8 メンバーズ/事務局からのお知らせ

(1ページから続く)

コンサートの終盤には、堀了介・沙也香さんの父娘チェロ・デュオと共にピアニストの山崎早登美さんが出演。山田耕筰の「からたちの花」といった郷愁を誘うメロディから、ショスタコーヴィチの「5つの小品」の軽妙な音楽まで、様々な音色が楽しめる演奏でした。チェロとピアノ、チェロとバンドネオン、チェロとチェロとピアノ、という多彩な組み合わせとなった「チェロと仲良くなるコンサート」、まさに“チェロの可能性”を感じられるひとときとなりました。なお、次ページに出演者の皆さんの感想を掲載していますので、併せてご覧下さい。

●チェリストの集い

第6回チェロの日でも「チェリストの集い」を開催。チェロ協会会員を中心として約60名が参加しました。チェリストの集い最大のイベントは、2日目に開催される「チェロでひとつになるコンサート」でのチェロ・オーケストラ演奏。チェロの日に向けて、昨年末から10回を超える自主練習が行われ、多くのメンバーが熱心に参加していました。

チェロの日初日の午前中は、新宿文化センターにてリハーサルを実施。指揮者の山本祐ノ介さん指導の下、ヴィラ=ロボスの大曲「ブラジル風バツァ第1番」をはじめ、翌日のコンサートに向けて細部の確認を行いました。サントリーホールに移動して「チェロと仲良くなるコンサート」を鑑賞した後は懇親会が開催され、集い参加者同士やコンサート出演者などとの音楽談義に花が咲きました。

チェロの日2日目は、いよいよコンサート当日。コンサートマスターを務めるチェロ協会会長の堤剛さんや、トップ奏者の一人を務める副会長の堀了介さんをはじめとしたプロの演奏家も加わり、実際の会場でゲネプロが行われました。数々の難所も、マエストロの情熱こもる指導により本番に向けた仕上げが進められました。

お昼休みを挟み、集い参加者は「チェロ・ゼミナール」に出席。世界的に活躍されている倉田澄子さん・宮田さんの座談会、元々お二人は師弟関係と言うこともあり、アットホームな雰囲気でお二人の音楽家としての歩みを伺いました。チェロの日のコピーライターとしてもご協力頂いている阿南一徳さん、そして会員の芳山朋史さんがモデレータをつとめ、会場からは活発に質疑が行われ、あっという間の1時間となりました。チェロ・ゼミの様子は、6~7面に掲載しています。

チェロ・ゼミが終わると、いよいよ「チェロでひとつになるコンサート」の開演です。

●チェロでひとつになるコンサート

チェロの日2日目に当たる3月21日に開催された「チェロでひとつになるコンサート」、サントリーホール・ブルーローズを横向きに使った会場には、開演時間の14時になるとおよそ70人のチェリストが満員のお客様に向かってスタンバイしていました。コンサートは2部制となっていて、第1部では「若手チェロ奏者による演奏」が、第2部ではチェリストの集い参加者による「チェロ・オーケストラの演奏」が行われます。

チェロ協会事務局の佃香菜子の司会で第1部が始まると、2014年に開催された第83回日本音楽コンクールのチェロ部門で1位に入賞した二人の若きチェリスト、佐藤晴真さんと森田啓佑さんが演奏。それぞれがチェロ独奏の演奏を披露した後、2人一緒にデュオ演奏をして頂きました。高校3年生とは思えない骨太のソロ演奏と、同級生コンビの息の合ったデュオ演奏には、感嘆の

ため息と共に盛んな拍手が送られました。

休憩を挟み、第2部には満を持してチェロ・オーケストラが演奏。今年はシックなタキシードに身を包んだ山本マエストロが登場すると、「羊は安らかに草を食み(バツァ)」のメロディがチェロ・オケ独特の優しい響きで会場を包みました。プログラムのトリを飾る「ブラジル風バツァ第1番(ヴィラ=ロボス)」は元々チェロ8本のために書かれた3楽章構成の作品で、第3回チェロの日以降4年続けて取り組んできた大曲です。年々その完成度は高まっているようですが、今年も素晴らしい演奏に会場は大盛り上がり。さらにアンコールとして「カヴァレリア・ルスティカーナ」「ウイスキーが、お好きでしょ」が演奏され、第6回チェロの日は無事に終演となりました。

●終わりに

今年もチェロ・オーケストラを熱心にご指導頂いた山本祐ノ介さん、出演くださった演奏家の皆さま、ボランティアスタッフの皆さまをはじめ、チェロの日の開催にお力添え下さった皆さまに感謝申し上げます。

■藤森 洸一さん

初めて練習に行くときは、どんな雰囲気か分からないし、知っている人もいないし、不安でした。しかし途中から参加した私にも、皆さんとても親切にボウイングだったり譜面上のことを優しく教えて下さいました。休憩時間にはチョコレートまで頂きました。疲れている時には甘いものがたいへん心地よいですね。ありがとうございました。

練習の時はトップで弾かせていただきました。それは初めての体験で、あの緊張感やリードしていく感じは大切だと思いました。今後後ろで弾くときもその感じを忘れないよう心がけます。

本番は「チェロの日」に携わった多くの皆様のお陰で無事成功致しました。この場をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

■岡部 由紀さん

チェロを始めて間もない2011年から今年まで、サントリーホールで演奏できるという魅力的な機会に、えいっ！と勢いで飛び込んで以来、あっという間でした。

時にくじけそうになりながらも「上手になりたい」と、試行錯誤する中、様々な機会を与えてくれるのがチェロの日です。今年も演奏を聴くだけでなく、一流の先生方に質問できる機会があったり、気さくにお話ができる懇親会があったり、舞台の上だけでなく人柄に触れることができるのも楽しみの一つです。

中でも素晴らしい体験は、チェロオケへの参加です。日本を代表するチェリストのすぐ側で弾ける機会は滅多にありません。でも聞き惚れていると自分の演奏が危なしくなるので、必死について行こうとします。音程、音色、リズム、タイミング…とてもいい勉強になります。自分の音まで少し良くなった気がします！

かけがえのない仲間との出会いも、チェロの日がきっかけでした。今や毎年楽しみにしている恒例のイベントです。



■黒川 実咲さん

チェロの日の「チェロと仲良くなるコンサート」では、ブラームスのチェロソナタの二番を演奏させていただきました。チェロが大好きな方々の前で、チェロ弾きなら誰もがいつか弾きたいと思うチェロの名曲、そしてチェロの日の初日幕開けとして演奏をさせていただき、とても緊張しましたが、聴いてくださった皆様方の暖かい雰囲気のお陰で、本当に楽しく演奏することができました。

学生時代から江沢くんのピアノの音が大好きで、彼の演奏するブラームスのピアノ曲の印象もとても大きかったので、「チェロと仲良くなるコンサート」で一緒に演奏するのが楽しみで楽しみで仕方ありませんでした。

あっという間の30分でしたが、こうして演奏させていただけるのは、演奏家にとって凄く幸せなことだなあと改めて感じました。また、ブラームスのチェロソナタが益々大好きになりました。

懇親会では皆さまとても優しく、チェロ弾きに悪い人は本当にいないなあと思いました。これからはずっとチェロを弾いていられるよう、一生懸命頑張りたいと思います。幸せな時間を本当にありがとうございました。



■高木 慶太さん

当日はたくさんのお客様にお越しいただきありがとうございました。お越しくくださった皆さまの演奏に対する集中力とあたたかい雰囲気の中、僕たちも楽しく演奏できました。

チェロとバンドネオンのDuoというのは、一見異色の組み合わせに見えますが、実はお互いの良さを出し合える、調和のとれた編成だと思います。最初にこの演奏会のお話をいただいた時、「できればピアノ以外とのDuoをお願いします」ということで、最初に頭に浮かんだのが、バンドネオンとの共演で、昔からの音楽仲間でもある鈴木崇朗君とは、いつか一緒に演奏してみたいと思っていたところでした。

演奏したバツァでは、バンドネオンの音色から、オルガンをイメージされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。また、ピアソラの作品では、躍動するリズムや美しいオブリガートなど、どこか懐かしい気持ちにさせてくれる鈴木君のサウンドに、僕自身幸せをかみしめながら共に演奏していました。

チェロ協会関係者、聴きにいらして下さった皆さまに、重ねて感謝申し上げます。

■堀了介さん

毎年「チェロの日」のイベントが盛大に行われていますが、楽しそうに弾いている皆様の笑顔を見ると、チェロ協会を通じ多くの方と交流の場が出来たことを本当に良かったと思います。

普段アマチュアの方たちとは舞台上と客席との関係ですが、合奏の日だけは気持ちを一つに一緒に演奏することが出来、これもまた楽しいひと時でした。この機会にチェロを皆と弾いてみようという仲間が増えることを期待しています。チェロ初心者の方もチェロと弓を持って座っているだけでも楽しいので、是非ご参加下さい。

また、今回『チェロと仲良くなるコンサート』では娘とデュオを弾く機会を与えて頂き、大変感謝しております。最近、時々娘と一緒に弾くことがありますが、今回はチェロが大好きな人々の前で弾き、身内の中で弾くような親近感とは別に、何か不思議な緊張を感じながらも、30分間を楽しんで弾かせて頂きました。

毎年、若いチェリスト達の演奏も聴かせて頂きますが、日本のチェロ界のレベルが本当に高くなったことを感じ嬉しく思っています。来年の『チェロの日』を心より楽しみにしています。

■堀 沙也香さん

「チェロの日」への参加は第1回目以来でしたが、今回「チェロと仲良くなるコンサート」で父と一緒に演奏させていただき、とても楽しかったです。

父とデュオCDを製作したこともあり、ここ数年親子で演奏する機会が多くなりましたが、チェロ愛好家の方々の中で演奏するのは、またちょっと違った雰囲気や、温かくアットホームな空間だったような気がします。

チェロという楽器は音域が広いので、二重奏からオーケストラまでチェロだけで成り立ちますし、他の楽器の曲もアレンジして演奏できたり、色んな楽器とのアンサンブルも可能なので、今回のコンサートでは、チェロの可能性を感じていただけたのではないのでしょうか。実際、私達のプログラムは、ピアッティのセレナーデはオリジナルですが、ショスタコーヴィチの5つの小品はヴァイオリン曲をチェロ用に音域を直して演奏、その他の曲は親子で演奏するためにアレンジしてある曲でした。

アマチュア、プロを問わず、チェロを大好きな人達が一年に一度大集合するこのイベントを開催して下さるチェロ協会に感謝です。



第6回チェロの日 チェロ・ゼミナールより 倉田澄子さん・宮田大さん座談会



【阿南】 きょうは大勢の皆さまにお集まりいただきありがとうございます。第6回チェロの日のチェロゼミナールを始めさせていただきます。きょうの進行役を務めます阿南一徳と申します。私はチェロが全然弾けませんので、チェロ協会の芳山朋史さんに相方としてお手伝いをいただきます。

ゲストにお迎えいたしましたのは、世界中でご活躍のお二人のチェリスト、倉田澄子さんと宮田大さんに、お忙しい中いらしていただきました。

お二人は師弟のご関係でいらっしゃいまして、最初の出会いがあったと思うんですけども、はじめに、お二人が初めてお会いしたときの印象をお聞きしたいと思います。

お二人の出会い

【倉田】 出会い。あなたは覚えてないと思うけど、小学校6年生のときにご両親に連れられて見たんだけど、覚えてる？

【宮田】 覚えてます。

【倉田】 そのときからカサドの無伴奏とか、ドヴォルザークとか、上手に弾いていたから、なんで来たのかなと思ったんだ。本当によく弾いていたんだけど、こんなに才能があるすごい子ならば、長い目で将来、世界に通用するそういうためにもうちょっと必要なことがあるかなと思ったので、それから中学の間3年間ぐらい、私はあなたに嫌われていいと覚悟して、嫌なおばさんをしてたわけ。

【宮田】 ありがとうございます。

【倉田】 すごい嫌だったでしょ。

【宮田】 いえ、中学校のときはバレーボールをやっていたので、練習とかで突き指になりそうなことがあったりとかして、レッスンに行けなかったこともありました。そういうとき、寛大に受け取っていただきながら、先生の奥底には「ちゃんと練習しなさい」という目をしてらっしゃった思い出もあるんですけども。

【倉田】 でも、だってあんなに弾けていたんだから、なんで今からエチュードからって思わなかった？

【宮田】 いや、自分は才能教育で育ってきたので、自分の好きな曲を好きなように、自分で弾く楽しさをまずは味わおうということで、基礎がちゃんとできてないこともありました。そこで一から音階だったり、セブシックだったりを最初から教えていただいたんです。

【倉田】 すごい忍耐だったと思うのね。で、割とすぐに言うことができるじゃない。その場では。でも本番になると、またびゅんって戻らない。そういう時期が3年ぐらいあったかな。

【宮田】 そうですね。

【倉田】 そのあとよね。いつごろから。

宮田さんが伸びたきっかけ

【宮田】 コンクールでお世話になるときに、初めて先生の一番怖い目を見まして、『アルペジオーネソナタ』を自分が弾いたときに、音程がもうボロボロだったり、先生が言ってることが全然できてなくて。「もう言うことは私ないから帰らなさい」と言われて、まずは練習をちゃんとしなさい、ということだったと思うんですけど。それがあって、どういう方法で練習しなさいいけないのかっていうことを考えたのもいい勉強になったんじゃないかと。

【倉田】 あれがきっかけだったの？

【宮田】 あのときに気合が入ったのでちょっと遅かったかなと思いますけど、すみません。

【倉田】 いや、その後どんどん変わっていったと思うのね。あれが15歳ぐらい。

カフェ澄子

【宮田】 そうですね。先生の家に行くと、まずはカフェ澄子っていうのがあって、先生が入れてくださったコーヒーやら紅茶を頂いて、お菓子を食べながら、色々話を聞いてくださって、そのあと最強のレッスンが始まりました。

今も先生のお宅に何うと、色々話を聞いてくださって、昔と全然変わらない関係を築かせていただいているのは本当にありがたいなと思います。

【倉田】 今では本当に彼から学ぶことだらけです。彼はどんな場面でも人の批判とか悪口っていうのを一切言ったことがなく

て、本当に優しい子・・・優しい青年になって。それとやっぱり相当な勉強家ね。この間、1月から2月の間になんと11回もドヴォルザーク弾いたっていうけど、それでも毎回、毎回、毎回、上り詰めようとして、進化してっていうのかしら。毎回変えてる。そういうところがすごいと思うし、あと、オン、オフが上手い。信じられないほど凝縮された集中力と、オフになるときのうまさ。

【阿南】 それでは、チェロゼミナールというタイトルは急きょ変更しまして、カフェ澄子、溜池版ということにさせていただきました(笑)。

次にお二人のご経験について聞かせていただきます。宮田さんがドイツで勉強されたときに、「失敗を恐れるな」ということを教わって、それがターニングポイントになったという記事を拝見したことがあるんですけど、そのことについてちょっとお話し頂けますか。



新しいものを生み出すには自分の中にあるものを見つめ直す

【宮田】 自分は、海外ではスイスとドイツとで勉強させていただいたんですが、スイスではヴァイオリンのガポール・タカーチ=ナジっていうタカーチ・カルテットの1stヴァイオリンの先生にずっと習っていました。その先生は何ていうか、血が全部音符のような音楽大好きな人でした。先生には「お母さんのお腹にいたときから今までの人生で、自分にしかない個性を大切にしない」と言われて、それまでは何か新しく生み出そうと思うときに、新しいものを取り入れようとしていたんですけど、逆に自分の中にあるものを見つめ直さなきゃいけないんだなって気がついた瞬間で、今の自己表現方法の一つになりました。

ドイツの先生にもスイスの先生にも共通して言われたのが、いい先生に巡り会ったんだねっておっしゃって下さって、自分の一番土台となるものを作ってくださいなのが、倉田先生だということをおっしゃってくださるし、自分もそうやって思うので、ありがたい気持ちです。

【阿南】 倉田先生にもお聞きしたいのですが、先生が以前受けられたインタビューの中で印象に残っているのが、練習を始める前にまず自分の音を探す、自分が納得できる音をまず探されるとお話になっていました。それが見つからないと練習のほうも始められないだっというお話が非常に印象深かったんですが、もう少し詳しくお伺いしたいと思います。

【倉田】 皆さんもそうじゃない？小学校の4～5年の頃に堤先生のお父さまに手ほどきをしていただいて、その頃から常にそうだったんです。子どもで生意気だと思っただけど、父のSPの深い音を聞いていたせいもあるんだけど、自分の「あの音」っていうのがあって、まず開放弦を弾いても何だか響きが出ないと、子どもなりに「違う、違う、違う」ってずっと1日中やっていました。傍にいた母が「堤先生や斉藤先生の宿題が間に合わなくなるから早く練習始めなさい」って口出しするくらい。それでも、弦を取り換えてみたり、随分音探しをしていました。今もそうですけれどね。

【阿南】 予め聴講の皆さまにお配りしたアンケートで寄せられたご質問をしたいと思います。「毎日弾く決まったルーティンはおありですか。その中でアマチュアにもお勧めのものがありますか」というご質問、そして「毎日のラジオ体操のように、例えば毎日10分続けてとても良い成果となるカリキュラムなどあったらご教授いただけたらうれしいです」と、少し似た質問かと思うんですが、いかがでしょうか。

チェロ弾きのルーティン

【宮田】 昔は自分の父親に教えられて『荒城の月』を毎日4ポジションと5ポジションで弾いていました。それで自分の叙情的な気持ちとかいうか、今から練習する嫌な気持ちを取っ払うというか、そういうのがありました。あとは、まず音階を全ての弦の上のほうまで1弦ずつ弾いています。本番とかになると肩が固くなってしまったりとかするので、人間の手ってここ(上腕)からのイメージがあるんですけど、実は人間の手ってこら辺(肩の辺り)から付いてるっていうふうと思うと、もっと手が長く感じるんですよ。指板を持つときも、倉田先生もよくおっしゃるんですけど、ここ(肘)の角度を変えずに持っていき、今でも課題なんです。



【倉田】 肩甲骨から。

【宮田】 だから、C、C、C、C、D、D、D、DってA線からC線まで全部やるというのは、ルーティンではないですけど、本番前にやったりというのはありますね。

【倉田】 いま大ちゃんが言ったように、トルトゥリエ先生も、どのポジションまでも指板を水平に滑るように、A線から始まってC線まで練習をしてらしたのね。『フィヤール』ってエチュードありますよね。シドレシソラシドレミドラシドラとか、ポジション移動して。私のクラスでのレッスンでは、音程をわざと外して、瞬間に低いか高いか感じ取ってパッと直すっていう練習もあったわね。3度は大変だったけど、6度とかオクターブとか、取れて当たり前なんだけど、取れなかったらどうするかって。

【宮田】 どのように取るかっていうことを確認するっていうことですね。取れてることを確認するんじゃないかと。

【倉田】 そうそう。どうして今、低かったかとか、失敗の原因をそっちから考える。

【宮田】 先生は本番前になにかやるんですか。音階とか。

【倉田】 そのシドレシソラシソとか、あとは分散(和音)。トルトゥリエ先生がやっていましたね。トルトゥリエ先生が来日されたときに、すごいスケジュールにもかかわらず、急に青山学院のオーケストラでサン・サーンスを頼まれて、いいよって、ニコニコすぐに引き受けてくださって。私も付き人していたから楽屋にいたんですけど、そこでも、セブシック奏法みたいな、ティ、カ、タ、カ、タ、カって全部丁寧に練習をして、アーティキュレーション叩くものね。どんな場面でも、あんな大家がギリギリまで基礎練習をやっている。それをびっくりして見ていた。

【宮田】 そのときの自分の体調を把握するみたいなのがあるってことですかね。

【倉田】 そうかもしれないわねえ。だから、皆さんにも5分あったら、ロングトーンをオープンで端から端まで4弦、もう本当に遅く、遅く、遅くして、広がったり縮まったりしないで同じ太さの音を、元から先までまっすぐやると自分の筋肉が今日はちょっとのりが悪いと思うところをバランスを取りながらず〜と(弓の)先まで、先までいって、また同じように戻ってきて。例えば12までゆ〜っくり数えて返して、今度は11にするのね。数えていくの。で、10にして、9にしてって行って、1、1まで。でも、アクセントになっちゃいけないし、減ってもいけないし、圧力とその重さとスピードが平均したときっていうのは音が変わらないでしょ。もし5分あったら、右手はそんなロングトーンなさんと、返しの練習にもなるんじゃないかしら。

【宮田】 駒そばでだんだん弾けてくるようになってくるといつそうまた良いかもしれないですね。

【倉田】 指板のほうで、っていうのは駄目なの。もちろん、ソロの話ね。トルトゥリエ先生がおっしゃるには、ピアノシモ、ドルツシモ全て、駒のそばで太い芯のある音が出た上で、弱い・柔らかい音が本物だって。もちろん室内楽とかオケとかでは違うと思うけど。受け売りでお伝えします。

[[続きは、後日webに掲載いたします。]]

林 俊昭さん (R-058)

Toshiaki HAYASHI

1. 近況を教えてください

この4月から5年ぶりに東京芸大に戻り、今回は室内楽を教えてください。私自身チェロを教えることも好きですが、室内楽を教えるのは大好きなので楽しいです。

2. 室内楽の魅力を教えてください。

室内楽は、自分の出している音と他人の出している音をよく聴いてみんなで作って行くものなので、ソロとは違う楽しみがあります。演奏家より作曲家を前に出すことが優先されると思います。

3. チェロを始めたきっかけを教えてくださいませんか？

私の父は、若いころからアマチュアでヴィオラを弾いていました。家族でカルテットをしようと、まず兄2人にヴァイオリンを習わせてしまったため、結局チェロが私に回って来ました。

4. ご家族で演奏された中で、思い出に残っている曲や出来事はありますか？

父は会社勤めをしていたので、会社の何かの会でMozartの初期のカルテットを演奏することになりましたが、当日私がうっかりチェロ譜を忘れてきてしまって、父にこっぴどく怒られました。父はすごく怖い人だったので。結局、3分の2くらいは何とか暗譜で、残りは適当に、それらしく弾いて切り抜けたことをよく覚えています。お陰で演奏後は、父も静かになりました。

長男はシュトゥットガルト室内楽団のヴィオラのトップを30年務め、最近日本に帰りました。次男はアマチュアですが、今でも演奏しています。

5. イタリアで開催する「第2回デュオハヤシ国際コンクール」についてお聞かせください。



3年周期のVn&Pf、Vc&Pfのデュオのための国際コンクールです。私たちデュオを組んでから40年以上たちます。長く同じメンバーでやっているデュオを応援するつもりで、45才まで受けられるコンクールにしました。課題曲も広範囲に渡っていて、長く続けているデュオに有利だと思います。師弟関係や親子関係でなく、なるべく同等な立場のデュオに参加してほしいので、応募対象を年齢差15歳以下と定めています。

私はイタリアに留学していた学生時代は奨学金を頂き、国立サンタ・チェチリア・オーケストラで仕事をし、その後も現在まで毎年音楽祭や演奏会に呼ばれているので、恩返しの意味もあってイタリアで開催しています。

外国にコンクールを受けに行くのは、演奏のほかにも不安なことが多々あると思いますが、色々お世話もできるし、相談にも乗れるので、どうぞ安心して受けにいらして下さい。多くのデュオの応募をお待ちしております。

6. 若いチェリストに望むことはございますか？

クラシック音楽はある意味では伝承芸術なので、譜面をソルフェージュしていれば良いと思わないでください。欧米に留学して、あちらで沢山の音楽を吸収して、作曲家の気持ち、意思、作風などを理解し、イメージして演奏して下さい。

【コンクール情報】

第2回 デュオ ハヤシ国際コンクール

ヴァイオリンとピアノの二重奏 / チェロとピアノの二重奏

開催日/2016年9月5日(月)~9月10日(土)

会場/サンタ・ヴィットリア・イン・マテナーノ市市庁舎(イタリア・マルケ州・フェルモ県)

対象年齢/1971年1月1日から1995年12月31日の間に誕生した者(2016年に満21歳~45歳)演奏者の年齢の合計が86歳以下で、かつ年齢差が15歳以下のこと。

申込期間/2016年5月25日~7月25日(必着)

問/duohic@gmail.com http://duo-hic.com (要項・申込書の印刷可)

宇宿 直彰さん (R-241)

Naoaki USUKU

1. 近況を教えてください

今年1月から4月中旬までは、パリで過ごしましたが、日本の公演が4月下旬に横浜からスタートし夏までに10公演続きますので、しばらく日本に滞在します。

最近、コンチェルトやチェロのソロ曲の依頼の他は、姉 宇宿真紀子と「Les Cloches」(レ・クロッシュ)として活躍の場は広がっています。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

1歳上の姉が、フランス、アルザス地方、コルマルコンセルヴァトワールで6歳の時にチェロを始め、その時からチェロの音色に魅せられ、演奏したいと考えていました。コンセルヴァトワールでは、弦楽器は、子供の手に合った大きさのものがあるので6歳からレッスンを受けることが出来ますが、ピアノは大きすぎるという理由で、7歳以上にならないと受けられないのです。また特徴として、まず6歳の9月から半年間だけ、毎週交互にヴァイオリンとチェロのレッスンがあり、半年後にどちらかやりたい楽器を選択することになっています。私は、最初からチェロの音色が好きだったので、迷わずチェロを選びました。今でも変わらず楽器の中では、一番チェロの音色が好きで、一日もチェロの練習を嫌だと思ったことはありません。恐らく、厳しい訓練を受けた事がないから、ということもありますが、チェロが大好きです。

3. “Les Cloches” のデュオの演奏活動についてお聞かせください。

姉とは、小学校中学年の頃から恐らく20年以上回数にして300回近く一緒にアンサンブルをしていますので、もう暗黙の了解というか、同じ親から生まれたからか、自然に気持ちが合い、音のバランスがよいので楽しく演奏出来ます。“Les Cloches”とは、フランス語で、「鐘」という



意味です。私たちは、幼児期にフランスに渡り、日々教会の鐘の音を聴きながら育ちました。そして、チェロとピアノのデュオを二つの鐘の響きの重なり合いにたとえて、命名しました。デュオの演奏は、パリ音楽院時代から、ショパンフェスティバル(パリ)やスペインのフェスティバル、ロシア サンクトペテルブルクの建都300年記念の式典で演奏をさせて頂いています。音楽院卒業後、フランスナンシーでのサマーフェスティバルでは、5日間連続コンサートを行った時は、さすがにいくらかが合う仲と言っても、クタクタになったのを覚えています。

4. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいですか。

アーティストは、お客様が演奏を聴いて幸せになるための仕事をしています。より素晴らしい音楽にしたいといつも考えています。

東日本大震災のあと3年に渡り、福島県や宮城県でチャリティコンサートを開催しました。ホール中の人たちが次々と涙を流されて、終演後に固い握手とともに、「こんな幸せな気持ちにさせてもらえて、本当にうれしかったです。」とお声を掛けて下さった時は、とても感激しました。そして、チェリストであることを、心から幸せに思った瞬間でした。技術を身につけることも大切ですが、心と心が通じ合い、感動を与えられる演奏家になれることが最高だと思います。一音一音を大切に、心で音を奏でるチェリストでありたいと考えています。

【演奏会情報】

レ・クロッシュ クリスマスコンサート&クリスマスパーティー

日時/2016年12月11日(日)

会場/南麻布セントレホール

料金/一般: ¥2500 パーティー(一般): ¥1500

問/ヨーロッパアーティスト 042-376-0360

出演者/宇宿直彰(Vc)、宇宿真紀子(Pf)

ピアノとチェロのデュオだけではなく、ピアノのソロ曲、アレンジを手掛けたチェロで奏でる美しい声楽曲、学生の頃から温めているパガニーニ: ロッシェーニの「モーゼ」の主題による変奏曲にぜひ注目してお聴きください。

三宅 依子さん (R-320)

Yoriko MIYAKE

1. チェロを始めたきっかけを教えてくださいませんか？

幼少の頃より低い音が好きだった私に、母はチェロの音色をよく聴かせてくれていました。そんな母は昔、カナダのオンタリオ州の円形劇場で初めて堤剛先生の演奏を聴いて、とても感動したそうです。家でCDから流れているチェロの音を聴き、弾きたいと思いました。

2. 何歳で始められたのですか？ ご家族は何か楽器をされてましたか？

チェロは10歳で始めました。家族も楽器は趣味で少し嗜んでいたようです。母は鼓、父はトランペットやギター、姉はピアノです。

3. 幼少の頃、よく聞いた(もしくは印象に残っている)曲はありますか？

カザルスのホワイトハウスコンサートのライブ録音のCDで、メンデルスゾーンピアノ三重奏曲第一番です。(カザルスの息づかいを幼少の時によく真似ていたようです。)

4. 楽器の練習以外にコンディションの上で心がけていること、毎日欠かさずされていること等ございますか？

特に気をつけていることはありませんが、お料理が大好きなので、包丁やスライサーなどで怪我をしないように心がけています。

5. 毎年、東京チェロアンサンブルの活動を続けられていらっしゃるが、活動の経緯や今年の演奏会についてお聞かせください。

活動を始めたきっかけは、学生時代にチェロアンサンブルのコンサートに出させていただいたことにあります。学校を卒業しても、もっとチェロアンサンブルを仲間とやっていきたい!と思い、この活動を始めましたが、学生時代と違い、スケジュール調整がもの凄く大変でした。また、メンバーが留学先などから帰ってくる時期を調整する必要も結局当初はありましたので、3月に決まっておこなわせていただいております。



したが、今回は2017年5月7日(日)に決定いたしました。当初より大切にしている「今の自分達にしかできないアンサンブル」をモットーに、今回の演奏会も全力で取り組みたいと思っております。

6. 2011年のチェロ・コンGRESSにご参加頂いておりますが、記憶に残るエピソードなどありますか？

プロアマ問わず、ご指導いただいた先生方から、いつもコンサートに来てくださる方々と一堂に舞台にたたせていただけたことが楽しかったです。ただ、人数が多かったので、アンサンブルが非常に難しかったということもとても心に残っております。

7. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいか教えてください

コンサートに来ていただいたお客様に「きてよかったね」と思っていたような演奏家になりたいです。

【演奏会情報】

東京チェロアンサンブル in 逗子

日時/2016年10月1日(土) 14:00(子供のコンサートは11:00~11:30予定)

会場/逗子文化プラザ なぎさホール

料金/¥3,000(自由席)

出演/荒井結子・小林幸太郎・清水詩織・中実穂・新倉瞳・堀沙也香・三宅依子・森山涼介・横山桂

問/LEGARE 046-872-4537 cat.legare@jcom.home.ne.jp

http://www.legare-music.info

東京チェロアンサンブル with フレンズ in 茅ヶ崎

日時/2016年11月23日(水・祝) 15:00(予定)

会場/茅ヶ崎市民文化会館(大)

料金/未定

出演/市寛也・門脇大樹・清水詩織・小林幸太郎・中実穂・堀沙也香・三宅依子・山本直輝

問/茅ヶ崎市楽友協会 0467-82-3744 http://www.chigasaki-psc.org/

濱田 遙さん (S-107)

Haruka HAMADA

1. 近況を教えてください

今年4月に初めて小さなリサイタルを行うことができました。バッハの無伴奏組曲第1番やベートーヴェンのソナタ第4番などを弾きましたが、当日のベース配分に苦労しました。反省点はたくさんありますが、お客様に温かく聴いていただけて嬉しかったです。

5月には新国立劇場のオペラに参加させていただき、緊張感のあるプロの現場を経験することができました。歌とオケが一体になったと感じた瞬間はゾクゾクしました。

また大学では、作曲の先生方の作品演奏の機会を何度かいただき、現代曲に挑戦しています。



ブして、どこまでも続く針葉樹林や美しい湖に感動しました。また、昨年冬に行ったベルリンでは室内楽やオペラなど、いくつかの素晴らしい演奏会に行くことができました。

5. これまでチェロの日に何度かご参加頂いておりますが、チェロの日の魅力やチェロ・オーケストラに参加されて感じられることなどお聞かせください。

会員の皆さんはチェロへの熱い気持ちを持っていらっしゃるのでも、私もがんばらなくてはいつも励みになります。大勢のチェロを愛している人が集まって、一緒に演奏したり交流できたりする場があることは、幸せなことだと思います。

6. 今後どのようなチェリストとして活動していきたいか教えてください

作曲家のメッセージを読み取り、自分の言葉で音楽が語れるように努力していきたいです。また室内楽やオーケストラでは周りの音に溶けこませながらも何か味を出して、「また濱田と演奏したい!」と思ってもらえるようなチェリストになりたいです。

また、夢の一つとして、ワーグナーのオペラのサウンドが大好きなので、パイロイト祝祭歌劇場のオーケストラピットで「タンホイザー」や「指環」を演奏したいです。

【演奏会情報】

Music Explorer Ensemble Concert #24

日時/2016年11月16日(水) 19:00

会場/調布市せんがわ劇場ホール

料金/¥500

出演/吉江美桜、菊野凜太郎(VI)、山本一輝(VIa)、濱田遥(Vc)、黒田哲平(Co)

問/mecp.info@gmail.com http://mecp-info.jimdo.com

2. チェロを始めたきっかけを教えてくださいませんか？

私の母が学生時代にフランスのセミナーで、あるチェリストのバッハの第3番を聴き、非常に心を奪われてその音色が忘れられず、私がチェロを始めるきっかけになったそうです。そして、5歳から桐朋学園の音楽教室で常光聡先生にレッスンをしていただき、小学2年生から倉田澄子先生にも御指導いただきました。昨年の大学1年生の秋から堤剛先生の下で学ばせていただいております。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

次の日がお休みだとわかって夜ベッドに入る時は至福のひと時です。また仲のいい友達とたわいもない話をして笑う時間も幸せです。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

海外旅行が大好きです。小学生の頃にカナディアンロッキーをドライ